

条件はみんな同じ

第10期OB 石井 隆太

昨年は、久方ぶりに、国際学会に参加する機会を得られました。学会の役割は多種多様でして、かつては、最先端の研究動向を知る／知らせるとするのが最たる役割だったのですが、近年では、研究論文が即時的にオンラインで公開され、最新研究に関するウェビナーが盛んに開催されるようになりましたので、その役割は薄まってきているようです。むしろ、研究者同士で交流しネットワーキングを行う機会を提供することが、学会の役割として重視されるようになってきていると感じます。そうした背景もあって、コロナ禍でオンライン開催されていた国内外の学会は、昨年からはほとんど対面開催へと戻りました。幸いにも昨年は近場の韓国（大阪から90分！）にて、馴染みの国際学会が二度も開催されましたので、二度、ソウルへ行って参りました。

1 度目は、Global Marketing Conference (GMC) という大規模な学会でした。ここでは、大学院在学時代に、私の副指導教授として2週間ほど来日してくださったジョン・カドガン先生と、実に4年ぶりの再会を果たすことができました。学会会場では、カドガン先生に海外研究者の方をたくさんご紹介いただき、研究者トモダチができたり、共同研究やろうよという話ができたり、とても刺激的な数日間を過ごしました。メール、テレ



2023 Global Marketing Conference にて2人の恩師と

ビ電話、SNS といったコミュニケーションツールの発達によって、遠方の海外研究者たちとの共同研究を格段に行いやすくなったはずですが、共同研究の“始まり”だけは、なかなか遠隔では行いにくいように実感します。やはり、実際に会って話して、意気投合して、やろうやろうと盛り上がるみたいな勢いが事の始まりには必要みたいです。

2 度目は、Korean Scholars of Marketing Science (KSMS) の国際学会でした。こちらは、先の GMC よりも小規模な一方で、参加者間の密なコミュニケーションが行われる学会です。ここでは、GMC にてお会いしたロバート・モーガン先生とゆっくり交流するという機会を得ることができました。私の研究発表を終えた後、一対一でのインフォーマルなコミュニケーションの中で、私の研究やキャリアについて親身にアドバイスをくださったのですが、そのうちのひとつは、「今後、あなたの研究を発展させるために、新しくこん

なデータを収集してはどうか？」という提案でした¹。そうしたデータ収集は難しいと知っていたので、私は素直に、「そうしたデータを収集するのは、非常に難しいと思います」と回答しました。この回答を受けてモーガン先生は、次のように述べました。

「リュウタ…、それは、全く“問題”じゃない。むしろ、“チャンス”だ。良いかい？ 君にとって難しいということは、他のすべての人にとっても難しいということだ。君にとって簡単なことは、他の誰でもやれることだ。君にとって難しいことにチャレンジすることが、良い研究のための鍵だ」

(著者によるかなりの意訳)

輝かしい研究成果を出してきたモーガン先生の言葉には重みがありました。研究は思うように進まないことが多く、それは、研究アイデアが無い、データが集められない、データの分析がうまくいかないなど、様々な原因によるものです。研究活動を“妨害”するようなイベントもたくさんあって、大学の運営業務をはじめとするオフィシャルなものから、娘が体調を崩したなどのインフォーマルなものまで様々です。時に、こんな過酷な環境にいるのは、こんなに上手くいかないのは自分だけではないか？ と感じることもあります。ですが、モーガン先生に言わせれば、「条件はみんな同じ」なのでしょう。どんなに優れた研究者であっても、みんなそうした大変な日々の中にありながら、研究や家事や育児に何とか取り組んでいるということです。



2023 KSMS International Conferenceにて



Best Conference Paper Award の受賞式にて
(左はモーガン先生)

さて、2024年4月からは、研究休暇（サバティカル、研究専念期間）という制度を利用して、1年間、研究活動に集中する機会を頂戴できることになりました。夏にはジョン・カドガン先生他、海外の研究者たちと共同研究を進めるべく、イギリスはレスター大学に訪問研究員として留学する予定です。留学も海外長期滞在も共同研究も、自分にとってはハードルの高いことばかりですが、そうした自分にとって難しいことにチャレンジできる一年にしたいと思います。

¹ 具体的には、私の研究で使っていたデータは、製造企業各社の「代表的な1つの事業部」から収集されていました。それに対して、モーガン先生は、「ある程度の規模がある製造企業は、複数事業部を持っているので、それらすべての事業部からデータを収集してはどうか？」と提案してくださいました。